







## ■「バロン」ワールドはファンタジーの洪水!

バロンは大砲の弾に乗り、月の世界に飛び、地底王国をさまよひ、火山の火口に落ち、深海の巨大魚のおなかの中を探検。空は頭の上にあらず、大海は足元にあるとは限らない・・・バロンの世界は時を超え、常識など存在しない自由自在の空間。そこではバロンの夢は全て現実なのだ。

バロンには4人の仲間がいる。月の王に監禁されている弾よりも速く走る男、パートホールド。火山の中の地底王国を司る神の召使いで、宇宙一の力持ちアルプレヒト。島よりも巨大な魚に飲み込まれた千里眼のアドルファス。異常に聴覚が発達し、驚異の肺活量で強風を吹くグスタバス。

そして月の王と王妃、地底王国の神バルカン、トルコのサルタン、ビーナス、少女サリー等々、可能限りパラエティに富んだキャラクターが登場する。

## ■ストーリー

時は18世紀のドイツの町。毎日のようにくり返されるトルコ軍の攻撃のために、人々は飢えと貧困で疲れ切っていた。海にはトルコ軍の船団が停泊し、海岸からは無数の兵士が押し寄せてくる。人々は悲惨な現実から逃避できず、夢や空想を忘れていた。いや、たったひとり、10才の少女サリーだけは違っていた。超能力をもつ4人の部下に従える伝説の英雄、バロンがいつの日か現れて町を救ってくれるものと信じていた。

戦闘は激しさをました。そして、廃墟と化した町に、ある日忽然と現れたひとりの男。彼は自分が伝説の主人公バロンであると声高に叫び始めた。だが、町の人々は誰も信じなかった。彼らにとって大事なことは、ひとりの英雄ではなく、自分たちの生命だったからだ。だが、サリーは違った。彼を追って、懸命に説得を始めた。「私たちの町を救って下さい。4人の部下を探してトルコ軍をやっつけて下さい」流るバロンもサリーの熱意に負け、仲間を探すことに決めた。さあ、目くらむ冒険とファンタジーの世界をめざし、気球に乗って出発だ!



## 映像の天才児、 テリー・ギリアムが創造した 圧倒的なイマジネーションの世界

# バロン

## ■フィジカル・エフェクトとSFX驚異の合体

この映画の最大の見所は、目を見張るビジュアルである。ギリアムはいかにしてこの想像を絶するダイナミックなシーンを完成させたか。

ギリアムがとった方法は「とにかくイメージの産物を実物大に創りあげること」、つまりフィジカル・エフェクトを映像作りの最大のテーマとしたのだ。

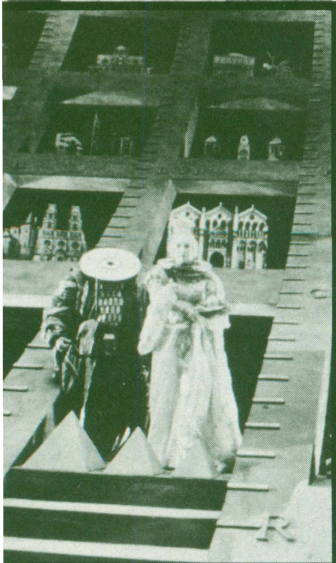
イタリア、スペインのロケ地で町を再建して実写する一方、世界最大のスタジオ、イタリアのチネチッタスタジオの16のステージのうち6スタジオを占拠し、実物大の巨大なセットを組んで撮影した。

それに、時空を超えて自由自在の冒険を映像化するにはSFXは欠かせない。SFXの作業は800万ドル(約10億4千万円)をかけたチネチッタの最新設備のブルースクリーン専用のステージと、45日間かけて、ロンドンのバインウッド・スタジオで行なわれた。

このフィジカル・エフェクトとSFXの合体が驚異の映像スペクタクルを完成させたのだ。

例えば——映画のハイライトとなる戦闘シーンでは延べ8万人のエキストラ、数千頭もの馬と象が出演。この迫力は「アラビアのロレンス」「ベン・ハー」をしのぐすさまじいモブ・シーンだといわれている。

このシーンはスペインの内乱で廃墟となったアルメリア地方の町を買い取り、18世紀当時のドイツを見事に再現した。



《今夏》ファンタスティックロードショー

◆特別鑑賞券(一般券¥1,300/学生券¥1,100/ペア券¥2,300)絶賛発売中!

コマ劇場前・地球会館4F

新宿ジョイシネマ2

03  
(209)  
4338

連日 11:30 2:00 4:30 7:00